

講義名	地域防災論		
科目区分	学部専門科目		
担当教員	西井 和夫		
開講期・曜日・時限	後期 月曜日 4時限	授業形態	
	2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 福祉マネジメントコース / 2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 サービス心理コース / 2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 スポーツ健康マネジメント / 2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 サービスマーケティング / 2014年度 サービス産業学部		
履修開始年次	3年生	単位数	2 備考

主題と概要
<p>東日本大震災を契機に、国土計画や地域計画における基本的なコンセプトとして『コンパクト+ネットワーク』が掲げられ、その中で「ダイバシティ」「コネクティビティ」「レジリエンス」の3つのキーワードがランドデザインが基本となっている。これは、少子高齢化・人口減少といった社会経済環境の変化への対応に加えて、地球温暖化などの気象変動のもとでの異常気象や大地震等による計画が威力をはるかに上回る巨大災害への対応が喫緊の課題となっていることが背景にある。したがって、これまでの「防災」において基本的な『被害抑止』の考えから、『減災』（計画外力を超える災害発生による被害を軽減する）の考え方に基づき『災害に強いまちづくり』のための地域防災計画とそれに基づく『事前復興』を含めた地域防災対策・事業を実施する必要がある。</p> <p>そこで本講義では、このような地域防災の基本的考え方や計画手法について基礎的理解を深めるとともに、『災害に強いまちづくり』については、神戸市役所からの招聘講師による講義を組込むことにより、地域防災に関連する実務上の諸課題や実践事例を理解した上で、地域防災における「自助」「共助」「公助」への基本的理解、そして減災を念頭に置いた「地域防災まちづくり」についても基礎的素養を身につける</p>

到達目標
<p>従来からの被害抑止のための「防災」と近年の被害軽減や事前復興を念頭に置いた「減災」の基本的考え方の理解 防災の基本となる「自助」・「共助」・「公助」とは何か、その関係性への理解とともに、個人としての防災・減災における責任・役割についての基本的理解と地域社会としての取り組みとしての「地域防災計画」や「災害に強いまちづくり」に関する理解を深める 地域防災に関連する実務上の諸課題や実践事例を理解する</p>

提出課題
<p>基本的にはほぼ毎回、講義で取り上げたトピックに対応した課題を課し、講義内容の習熟度を図る</p>

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック
<p>原則、課題等は、次週に採点結果と合わせて返却し、全体的な講評と個別のコメントを付し、フィードバックを図る。</p>

評価の基準
<p>定期試験は実施しない 平常点のみでの評価（評価割合はおおよそ出席30%と課題演習70%）</p>

履修にあたっての注意・助言他
<p>地域防災論における基本的な理解は、防災・減災に関する専門基礎分野の基本的素養を身につけるだけにとどまらず、近々の発生確率が高い南海トラフ大地震などの巨大災害に対する自助・共助のあり方を習得する意義もあり、他の科目と性格を異にしている科目であることに留意すべきである。</p>

教科書
.使用しない。

プリント資料及び参考文献
講義時に配布する

授業計画
<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域防災論 総論（1）：講義の概要・意義 2. 地域防災論 総論（2）：国土計画における「防災」の考え方 3. 神戸市からの招聘講師による講義（1） 4. 神戸市からの招聘講師による講義（2） 5. 神戸市からの招聘講師による講義（3） 6. 神戸市からの招聘講師による講義（4） 7. 神戸市からの招聘講師による講義（5） 8. 神戸市からの招聘講師による講義（6） 9. 地域防災論 総論（3）：「防災」と「減災」 10. 地域防災論 総論（4）：「自助」「共助」「公助」 11. 神戸市からの招聘講師による講義（7） 12. 地域防災論 総論（5）：「企業としての共助とCSRと」 13. 地域防災論 総論（6）：「地域防災計画」 14. 地域防災論 総論（7）：「災害に強いまちづくり」 15. 地域防災論 総論（8）：確認テスト

授業形態（アクティブ・ラーニング）
<p>ア：PBL（課題解決型学習）</p> <p>イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）</p> <p>ウ：ディスカッション、ディベート</p> <p>エ：グループワーク</p> <p>オ：プレゼンテーション</p> <p>カ：実習、フィールドワーク</p>

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
<p>準備学修の内容や時間は、基本的に各自で判断すること。また準備学修よりもむしろ重要なのは講義を集中して聴講し、また講義中の課題に取り組むことである（講義中にスマホに夢中になって講義をしっかりと聴いていない学生は準備学修などできるわけではない）</p>

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述
<p>基本的には、講義内容等の質疑応答で対応。ICTの活用は、非該当科目なので、その利用計画はない</p>

実務経験の有無及び活用
<p>西井：実務経験なし 神戸市からの招聘講師：実務経験あり</p>

備考